

いわき農林水産ニュース

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース

平成29年6月号(第148号) 発行 6月29日

目次

- ・【特集】第69回全国植樹祭……………p.1
- ・「サンシャインいわき梨」ベトナムへの輸出準備、着々と進む！……………p.4
- ・福島県農林水産部長が農林事業者などを訪問……………p.4
- ・「トマトフェア」開催！……………p.5
- ・松くい虫の被害拡大防止対策……………p.5
- ・草野小学校で「田んぼの学校」始まる……………p.5
- ・「第1回やさい教室 苗植会」開催……………p.6
- ・味噌づくり体験交流会開催……………p.6
- ・16か国駐日大使等、小名浜魚市場を視察……………p.6
- ・いわき木材流通センター記念市開催……………p.7
- [お知らせ]
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果……………p.7
- ・試験操業の状況……………p.8
- ・イベント情報……………p.8
- ・GAPコーナー……………p.9
- ・6次化商品紹介……………p.9
- ・いわき農林事務所各部業務紹介……………p.10

【特集】全国植樹祭

第69回全国植樹祭、来年春に福島県で開催！！

～育てよう 希望の森を いのちの森を～

○全国植樹祭って？

「全国植樹祭」は、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深める国土緑化運動の中心的行事です。天皇皇后両陛下のご臨席を賜るとともに、県内外から多くの参加者が集まり、式典や記念植樹が行われます。

昭和25年に山梨県で第1回が開催され、福島県では、昭和45年5月の第21回大会で猪苗代町天鏡台を会場に開催され、昭和天皇から津島マツのお手植えを賜りました。また、この前日には全国で初めて「全国林業後継者のつどい」（後の全国林業後継者大会）が開催され、全国6ブロック代表の後継者が日頃の活動や将来への抱負を発表し、相互の交流を深めました。

○第69回全国植樹祭は・・・

第69回全国植樹祭は、平成30年春季に開催され、本県では48年ぶりの開催となります。

「育てよう 希望の森を いのちの森を」を大会テーマに、東日本大震災により被災した緑豊かなふるさとの再生と、復興に向けて力強く歩む福島県の姿を全国に発信することとしています。



○どこで開催されるの？

第69回全国植樹祭は、南相馬市原町区雫（しどけ）地内の海岸防災林の造成地を会場として式典及び記念植樹が行われる予定です。

関連事業も県内各地で開催される予定で、いわき市においては、全国の林業後継者が一堂に会し、森林づくりへの先人の考えや担い手としての日ごろの取組みについて意見交換する「第47回全国林業後継者大会」が植樹祭の前日に開催されます。



○第69回全国植樹祭に向けた取組み・・・

いわき農林事務所においては、以下の取組を行っています。

◇苗木のスクールステイ・ホームステイ

(植樹祭等で植樹する苗木を小学校や企業・家庭等で育てていただいています)



◇PR活動

(全国植樹祭の開催機運を高めるため、各種イベントでPRを行っています)



「第46回全国林業後継者大会」参加レポート

いわき農林事務所 森林林業部

第68回全国植樹祭の前日、5月27日（土）に富山県黒部市で開催され、全国の林業研究グループ会員など森林林業関係者450名が参加、富山県5地域の林研グループが活動内容を発表。富山県で開発された無花粉スギ「立山森の輝き」を発表のキーワードとして、発表最後のフレーズを「すごいでしょ！」で統一し、地元の魅力、活動内容のPRも巧みなものでした。

また、地元森林組合作業員であるブルース・シンガー・ソングライター、WCカラス氏によるミニライブが行われるなど、特色のある大会でした。

来年はいわき市が大会会場となります。林研グループ、市、県が連携協力して大会の成功を目指します。



（開演まで観光PR映像を上映）



（黒部市宇奈月温泉駅の受付）



（キビタン 全国植樹祭バージョン）

全国植樹祭
バージョンの
キビタン
よろしくね！！

＜今後のスケジュールについて＞

今年夏に植樹祭開催日が決定となります。

今後の日程・PRイベントは、随時、いわき農林水産ニュースでお知らせします。

「サンシャインいわき梨」ベトナムへの輸出準備、着々と進む！

JA福島さくらいわき梨部会では、ベトナムへの梨輸出に向け準備を進めています。ベトナムは今年から日本産なしの輸入を解禁し、いわき市は他産地に先駆けて輸出することを計画しています。平成20年度に香港に輸出して以来、9年ぶりの輸出となります。

5月31日から6月2日の3日間には、横浜植物検疫所塩釜支所の検疫官3名による生産地検疫が実施され、輸出対象の樹を一本ずつ確認し、病害虫が発生していないか、適切に生産管理されているか、複合性フェロモン剤による防除がされているかなど、輸出条件を検査され、全園地が合格しました。今後8月末に「幸水」を、10月は「新高」を輸出予定です。

この取組を通じて、「サンシャインいわき梨」のブランド力が向上し、産地活性化の一助となることが期待されます。農林事務所は、関係機関や団体と連携し、農作物輸出を積極的に支援します。

(農業振興普及部)



(事前に選果場などの施設を確認)



(対象園地をくまなく確認)

福島県農林水産部長が農林事業者などを訪問

5月19日(金)、福島県農林水産部 佐竹浩部長が、ワンダーファーム、いわき菌床椎茸組合、下山田園芸などの生産現場や、小名浜魚市場を視察し、日頃の活動を激励するとともに情報交換を行いました。その後、地元いわき市を中心にスーパーマーケットを営む(株)マルトの本社(勿来町)を訪問し、小宅会長と県産農林水産物の販売状況や第三者認証GAPなどについて意見交換し、今後、県産品の消費拡大に向け互いに協力することとなりました。

(企画部)



(下山田園芸でのハウス内で説明を受ける様子)



((株)マルト本社会議室での意見交換)

「トマトフェア」開催！

6月4日（日）、小名浜潮目交流館で、「トマトフェア」が開催されました。いわき産トマトを楽しく紹介するイベントで、いわき市、JA福島さくらいわき地区本部、ライフクリエイイト福島が主催したものです。

ステージでは、市内のトマト生産者が、太陽の恵みを受けたいわきの美味しいトマトを紹介しました。市内の飲食店による物販コーナーや、勿来産の野菜とトマトで作られたミネストローネやサンシャイントマトのカレーが特別限定販売された給食コーナーもあり、どのブース也大盛況でした。

今後も、いわきのトマトを消費者にもっと知ってもらい、トマト生産がますます盛んになるよう、農林事務所としても積極的に支援してまいります。（農業振興普及部）



（ステージでタレントのなすびさんといわき産トマト紹介）

松くい虫の被害拡大防止対策

6月5日（月）から21日（水）まで、松くい虫の被害拡大の未然防止を目的に、いわき市は勿来、四倉・大久、小名浜、新舞子の民有林約185haにおいて、ヘリコプターやスパウダーによる薬剤散布を行いました。

マツには、痩せ地や海岸にも生育することから、土砂の流出や潮害などから住宅や農地を守る国土保全機能があります。また、木材やキノコの林産物の生産、白砂青松や街道のマツ並木など景観保全する重要な働きも担っております。

県といわき市が連携して被害対策を実施しており、松くい虫被害木の伐採・くん蒸処理を春（5～6月）と秋（10～12月）に行い、被害の拡大防止に取り組んでいます。（森林林業部）



（ヘリコプターによる散布作業）

草野小学校で「田んぼの学校」始まる

5月26日（金）、「田んぼの学校」が開校され、いわき市立草野小学校と福島県立聴覚支援学校平校の児童、計75名が、もち米（マンゲツモチ）の田植えに挑戦しました。

「田んぼの学校」は、地域の未来を担う子どもたちが、農業・農村地域の大切さを理解し、豊かな感性を育むことを目的とした体験型学習です。同校では、地元農家やPTA会員の協力のもと、独自に27年間農業体験学習に取組み、田んぼの学校事業との連携は3年目となります。児童たちは、富岡正治さんをはじめとする地元農家の方から説明を受け、実際に田植えに取り組みました。素足で田んぼに入るといった体験に、皆最初のうちは恐る恐るといった様子でしたが、徐々に「楽しい」「（田んぼが）温かい」といった声も聞かれ、笑顔で田植えを楽しんでいました。（農村整備部）



（頑張って植えるぞ～！）

「第1回やさい教室 苗植会」開催

6月1日(木)、いわき農業青年クラブ連絡協議会は、いわき市立常磐第一保育園において園児36名を対象に、「第1回やさい教室 苗植会」を開催しました。本教室は、園児たちに農業や農作物を身近に感じてもらうことを目的に毎年開催され、今回は、ミニトマト、ナス、オクラ等の苗の定植を行いました。

定植方法を説明すると、園児たちは積極的に苗植えに取り組み、「毎日お水あげるね!」と収穫を楽しみにしていました。

園児たちの喜ぶ顔を見て、クラブ員は、食を支える農業という職業に改めて誇りを感じ、子どもたちに作物を育てる楽しさや食の大切さを学んで欲しいと話していました。(農業振興普及部)



(説明に耳を傾ける園児たち)

味噌づくり体験交流会開催

6月3日(土)、差塩地区の加工所において、いわき地区生活研究グループ連絡協議会主催による「味噌づくり体験交流会」が開催されました。同協議会は、地元農産物の加工品製造や直売活動等を行う9つのグループからなる組織で、次世代の女性農業者への技術継承や消費者交流を目的に毎年各種イベントを実施しています。

今回の味噌づくり体験には、9家族15名が参加し、藁谷ナミ子氏(こだま会)を講師に味噌づくりを体験しました。各種味噌の食べ比べや、手作り味噌がおかゆを分解する実験を通して味噌に関する知識も深め、お昼には会員が持ち寄った一品料理をお腹いっぱい味わいながら、活発に交流を図りました。

仕込んだ味噌は各家庭に持ち帰り、約1年間の熟成を経て食卓にのぼる予定です。1年後が待ち遠しいですね。(農業振興普及部)



(米麹と大豆ペーストをまぜている様子)
(農業振興普及部)

16か国駐日大使等、小名浜魚市場を視察

6月8日(木)、外務省の主催による福島新エネ社会構想・いわき市スタディーツアーの一環で、米国、フランス、ドイツ、カナダ等の駐日大使等16名が小名浜魚市場を視察しました。大使らは魚市場3階の会議で、小名浜機船底曳網漁協の柳内理事から小名浜魚市場の概要に関する説明を受けた後、完全閉鎖型の高度衛生管理市場(A棟)と、全長約100mに及びカツオ・サンマ用市場(B棟)を見学しました。

また、放射性物質検査室では、毎日30~40種類の魚種の検査をしていることの説明を受け、大変厳格な検査が実施されていることに感心していました。ケニア大使からは、水産加工技術について技術協力が得られないかとの質問がありましたが、地方の漁協では難しいとの回答でした。(水産事務所)



(小名浜市場の概要説明)

いわき木材流通センター記念市開催

5月17日（水）、いわき市遠野町にある福島県森林組合連合会いわき木材流通センターの創立22周年記念市及び記念式典が行われました。同センターは、いわき市を中心とした県内の木材の安定供給に資するため、原木の流通拠点として平成8年に設立され、今では、県産原木を供給する県内市場取扱量の約2割を占めるまでになっています。



（創立22周年記念市に出品された原木）

記念式典では、林業・木材関係者約50名が出席し、福島県森林組合連合会の秋元代表理事会長から、長年にわたる出材と買方に対する御礼、今後とも県産木材の安定供給に努める旨のあいさつがありました。

今回出品されたいわき市産材を中心とする約2,500m³の原木は、住宅着工数の増加による需要もあって、全量取り引きされました。（森林林業部）

お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果

□ 農林畜産物の検査結果

平成29年5月にいわき地方で福島県が行った農林畜産物の放射性物質モニタリング検査では、検査した13品目30検体すべてにおいて、放射性セシウムの基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。内訳は（表1）のとおりです。また、5月末現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、（表2）のとおりです。（企画部）

（表1）基準値以下の品目と検体数
（13品目30検体）

サヤエンドウ（施設）1、コマツナ 1、菌床しいたけ（施設）4、菌床なめこ（施設）3、菌床うすひらたけ（施設）1、エリンギ（施設）1、くさそてつ（こごみ）（野生）3、ふき（野生）2、うど（野生）3、もみじがさ（しどけ）（野生）2、タラノメ 2、牛肉 2、原乳 5
--

（表2）出荷制限および出荷自粛品目（5月末現在）

制限、自粛	区 分	品 目
出荷制限	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ
	野菜・根菜・芋類/果物/穀類/畜産物	無
出荷自粛	山菜	さんしょう（野生のものに限る）

□ 海産魚介類の検査結果

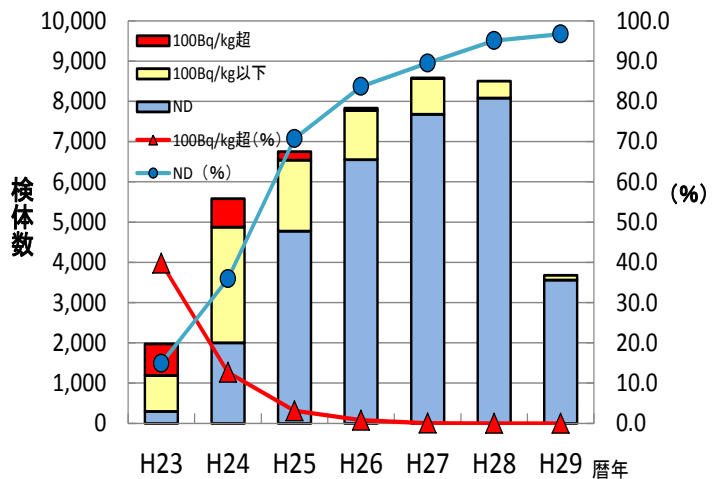
福島県沖（全県）で採取された海産魚介類から放射性セシウムが検出される割合は、時間の経過とともに着実に低下しています。平成29年5月の水産物モニタリング検査では、712検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。

海産魚介類では平成27年4月以降、全県で基準値を超えたものはありません。平成28年5月以降、モニタリング検査で放射性セシウムの検出限界値未満（以下、ND）の割合が95%を超え、平成29年5月はND割合が96.7%となっています。（水産事務所）

(表・グラフ) 平成23年以降のモニタリング検体数と放射性セシウム検出の割合(採取月日で集計(全県データ))

年		100Bq/kg超	100Bq/kg以下	不検出	計
H23	検体数	785	893	294	1,972
	割合(%)	39.8	45.3	14.9	100.0
H24	検体数	921	2,372	2,287	5,580
	割合(%)	16.5	42.5	41.0	100.0
H25	検体数	280	2,147	5,214	7,641
	割合(%)	3.7	28.1	68.2	100.0
H26	検体数	75	1,387	7,260	8,722
	割合(%)	0.9	15.9	83.2	100.0
H27	検体数	4	896	7,677	8,577
	割合(%)	0.05	10.4	89.5	100.0
H28	検体数	0	420	8,082	8,502
	割合(%)	0.00	4.9	95.1	100.0
H29	検体数	0	120	3,560	3,680
	割合(%)	0.00	3.3	96.7	100.0

H29.5.31現在



試験操業の状況

5月30日に開催された第2回県下漁業協同組合長会議において、相双地区のウニ・アワビ試験操業計画とコタマガイ操業計画が承認されました。

これにより全県では、漁業種類は11種類、試験操業計画は延べ27件になりました。(水産事務所)

(表) 地区別試験操業計画一覧

漁業種類	試験操業計画名称	地区別実施状況	
		相双	いわき
底びき網	底びき網漁業	○	○
船びき網	機船船びき網漁業(しらうお等)	○	○
	機船船びき網漁業(さより)	-	○
固定式さし網	固定式さし網漁業	○	○
流し網	マイワシ等 流し網	○	-
	サワラ等 流し網	○	-
かご	沖合タコカゴ	○	-
	かご漁業	○	○
	はもかご漁業	○	-
漁業種類	試験操業計画名称	地区別実施状況	
どう	どう漁業	○	-
採貝	あわび漁業	○	○
	うに漁業	○	○
貝けた網	ホッキ貝桁網漁業	○	○
はえ縄	タラはえ縄漁業	-	○
	はえ縄漁業(タラはえ縄除く)	○	○
釣り	釣り漁業	○	○
養殖	あさり養殖業	○	○
合計		15	12

イベント情報

「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン

農産物の無料配布等を行う予定です！

- 日時：平成29年7月23日(日) 開催予定
- 場所：ヨークベニマル新谷川瀬店

県産農林水産物への風評を払拭するため、消費者へ県産農林水産物の美味しさや安全性を再認識していただくことが必要となっています。このため、いわき農林事務所では、消費拡大キャンペーンとして「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを毎年3回実施しています。



H27年度7月にも、ヨークベニマル新谷川瀬店でキャンペーンを実施しました

いわきは第三者認証GAP取得、福島一を目指します。

6月21日(水)、いわき市中央公民館・文化センター視聴覚教室を会場に「第三者認証GAP研修会」を開催しました。

本研修会は、5月に福島県と福島県農業協同組合中央会が発表した「ふくしま。GAPチャレンジ宣言」を受け、いわき農林事務所でも東京オリンピック・パラリンピックへ食材を供給し、国内外へ向け、誇りと感謝を伝えるため、第三者認証GAP認定の拡大を図ることを目的に開催しました。

当日は、農業者、農業法人等生産者以外に市場流通関係者も含め75名が出席しました。



講師には、認定NPO法人アジアGAP総合研究所普及・研修部部长佐久間輝仁氏と、3月にJGAP認証を

取得したあかい菜園株式会社代表取締役船生典文氏の二人をお招きしました。佐久間氏からは「GAPの基礎と今後の販売戦略について」船生氏から「JGAP取得に期待すること」との題目で講演いただきました。特に、生産者である船生氏の講演ではGAP導入による効果等出席者を納得させるものがありました。参加者からは「認証の費用はいくらかかるのか」「認証の作物の区分はどうなっているのか」など、積極的な質問がありました。また、「部会員みんなで取り組めるようにしたい。」との声もありました。
(農業振興普及部)



「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」に掲載された 6次化商品をご紹介します！



元木社長
調理やドリンクなど食卓の様々なシーンでお使いいただけます。

株式会社 ワンダーファーム
いわき市四倉町中島字広町1
TEL.0246-38-8851
<http://www.wonder-farm.co.jp/>

四倉ICそばのワンダーファームの直売所「森のマルシェ」では、生食用のトマトを贅沢に使用した様々なトマトの商品を販売しています。なかでも「プレミアムトマトジュース」は、「飲むトマト」をコンセプトとした食塩無添加の商品で、トマトが苦手でも飲みやすいジュースとなっております。これらの商品は、道の駅よつくら港やいわき駅ビルでもお買い求めいただけるほか、インターネット販売も行っております。生のトマトそのもののおいしさを、ぜひお楽しみください。

<p>プレミアムトマトジュース 内容量:500g/価格:1600円(税抜) 内容量:160g/価格:550円(税抜)</p>  <p>大玉・中玉・ミニトマトを7種類も使い、甘さとコクが濃縮され濃厚に仕上げました。</p>	<p>トマトドレッシング</p> <p>内容量:140ml 価格:450円(税抜)</p> <p>サンシャイントマトとバジルをきかせた爽やかなドレッシングになっています。</p> 
<p>トマトケチャップ</p> <p>内容量:185g 価格:540円(税抜)</p> <p>サンシャイントマト本来の味を生かすために調味料・香辛料はシンプルに味付けをしました。</p> 	<p>トマトジャム</p> <p>内容量:140g 価格:560円(税抜)</p> <p>サンシャイントマトを使用しました。トマト本来の甘みと酸味のバランスが絶妙です。</p> 

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」は「ふくしま6次化情報STATION(<http://6jika.com/>)」に掲載されていますので、是非ご覧下さい。

本コーナーでは、いわき農林事務所の各部の業務を紹介してまいります。今回は、農業振興普及部を紹介します。

農業振興普及部では、現地での農業普及指導員による栽培管理技術等の指導や、補助事業による機械・施設整備等の支援を通じて、経営感覚に優れた担い手の育成に取り組んでいます。

園芸作目については、最新の環境制御装置導入によるトマトの単収向上実証展示を始め、リンドウの新産地育成、いちご・ネギ等の品質向上を支援するとともに、日本なしでは、震災で途絶えた輸出再開に向けて、検疫対策や物流の準備を進めています。

土地利用型農業については、農地中間管理事業等を活用した担い手への農地利用集積を図りながら、「天のつぶ」等需要に応じた米づくりを進めるとともに、肉用牛の生産拡大に向けた支援を行っています。

また、現在、「ふくしま。GAPチャレンジ宣言」の実現に向け、第三者認証GAP（農業生産工程管理）の取組拡大に事務所を挙げて重点的に取り組んでいます。充実した補助事業も準備していますので、興味のある方は下記連絡先までお気軽にご相談ください。

農業振興普及部の主な業務

- 1 農業を支える担い手（認定農業者と新規就農者等）の確保
- 2 水田を活用した土地利用型農業の確立
- 3 特色ある園芸産地の振興
- 4 食の安全・安心に配慮した農業の推進（GAPの推進）
- 5 鳥獣害対策の推進
- 6 農産物直売活動の支援と農産物加工技術の向上



(リンドウ栽培指導会の様子)



いわき農林事務所

キャッチフレーズ

このキャッチフレーズには、「燦々と降り注ぐいわきの太陽の光のように、農林業に携わるすべての人に、一日でも早く真の笑顔があふれるよう、所員が一丸となってスピード感と緊張感を持って目に見える成果を求めていく」という思いを込めています。

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース